

かるがも



第38号

発行所 千葉県こども病院

〒266-0007 千葉市緑区辺田町579-1

TEL 043-292-2111

FAX 043-292-3815

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo>

新年度にあたって

病院長 伊達 裕昭



2月には記録的な大雪があるなど、例年より寒い冬でしたが、着実に春は近づき、木々が芽吹き柔らかな空気に満ちた4月を迎えました。

平成26年の新年度にあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

今年度は、開院以来、当院の診療を支えてきた心臓血管外科の藤原診療部長と歯科口腔外科の甲原部長が、3月をもって定年退職されています。そのほか医療局、看護局、事務局それぞれの部署で、皆さまにこれまで長く慣れ親しんでいた職員にも異動があったかと思えます。後任者が一日も早く業務に慣れ、日々の診療に支障を生じないよう対応に努めます。前任者と同様、どうかよろしくお願い申し上げます。

この時期の職員の異動は例年のことですが、今年は2年に一度の診療報酬改定の年にも当たりました。そのため、4月から皆さまが支払われる医療費にも、初診料・再診料・入院料などこれまでとは多少の変化が見られます。会計時にはどうか明細書をご確認いただき、不明の点があればその場で事務担当にお問い合わせ下さい。同時にこの4月からは消費税が8%にアップしましたが、ご負担いただく医療費にはもともと消費税は課せられていません。したがって、この増税による直接の影響はないことを念のため申し添えます。

診療報酬の改定では、国が健康保険で負担する医療費の総額を考慮しつつ、今後の我が国の医療の目指す方向を間接的に示します。今回の改定の骨子は、約800万人に上る団塊の世代が75才以上の後期高齢者となる平成37年に医療の供給不足が懸念される、いわゆる「2025年問題」を解決するために医療の提供体制を見直す点にあります。具体的には、今後の10年でこれまでの「医療機関完結型」の医療提供から、生活基盤のある居住地域での「地域完結型」医療へと移行することを求めるメッセージが出た、と解されます。外来診療が主体の診療所、入院設備をもち対応する急性期病院、療養のための慢性期病院、退院後の介護施設や在宅支援施設、訪問看護ステーションなど、病期・病状により必要な医療・生活支援の機能を地域内で分担する仕組み（「地域包括ケアシステム」）の実践が求められているわけです。

「2025年問題」が意味する通り、これは高齢者を主眼とした方策ですが、こうした動きは小児でも同様に求められます。小児の場合はさらに、成人期に達した患者さんの移行期医療の問題が重なります。全国で20才を超える小児慢性疾患の患者さんは毎年1,000名ずつ増加し、2020年までには40才未満の若年成人の数百人に一人が小児慢性疾患の患者さんになる、という推計もあります。こうした患者さんを適切に継続的に診る仕組みを地域の関係機関とともに作ることも、これからの当院に求められる大きな役割の一つと考えます。問題の解決には、時間をかけた地域医療機関との連携強化と同時に、患者さんご家族のこの問題への認識と理解も欠かせません。

今年度も当院の種々の取り組みに対して、皆さまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成26年4月

認定遺伝カウンセラー 岡田 千穂



はじめまして。千葉県こども病院の認定遺伝カウンセラーの、岡田千穂です。「遺伝カウンセラー」という職業を初めて耳にする方も多いのではないのでしょうか？ 私の仕事は、遺伝に関する不安や悩みを持つ患者さんとそのご家族を対象に、分かりやすい情報提供と心理的支援を行うことですが、「遺伝カウンセリング」について少し触れたいと思います。

遺伝カウンセリングは主に2つの問いに対応することだと言われています。1つ目は、「Why did this happen?(=どうしてこれが起こったのか?)」。この疑問には、遺伝子や染色体の変化によって引き起こされた病気のメカニズムや、科学的根拠に基づく正確な医療情報の提供によって答えることが出来ます。2つ目は、「Why did this happen to me?(=どうしてこのことが『自分に』起こったのか?)」。情報提供によって疾患理解が進むことと、自分の身に起こったものとして受け入れることは別であり、実はこの疑問に明確な答えはありません。遺伝や遺伝性の病気に対して割り切れない思い、深い悲しみ、怒りや恐れをもつ患者さんとそのご家族の思いに耳を傾け、改めて自分自身の価値観や思いと向き合い、自分(達)は何が大切でどうしたいのか、考えをまとめ、行動できるよう支援します。

遺伝カウンセリングで扱う「遺伝の悩み」と言っても千差万別ですが、当院では病気のお子さんをもつご両親から、次子を考える際のリスク、きょうだいへの影響、次世代への遺伝についての相談が多くを占めます。また子どもたちの成長・発達に合わせて、本人やそのきょうだいが病気や遺伝のことをきちんと理解できるようお手伝いすることもあります。

患者さんやご家族の立場に立って一緒に考えていきたいと思っておりますので、どんなことでも お気軽にご相談ください。



公開カンファレンスの開催報告とご案内



登録医の先生方からいただいたご意見・ご希望等を参考に身近な疾病等をベースにした講演と当院とのスタッフとの意見交換を行っています。

演 題：「小児1+1.5次救急処置」
 ー安全に搬送するためにー
 集中治療科 藤浪 綾子

演者の藤浪医師が小児1+1.5次救急処置について講義をし、想定される状況での救急処置を実施しました。

実演後、登録医の先生方にも実際に救急処置について体験していただきました。

なお、次回の第26回は平成26年6月25日(水)19時30分より当院第一会議室で開催いたします。多くの先生方のご参加をお待ちしております。講演内容は5月上旬頃にホームページにてお知らせいたします。



千葉県こども病院県民公開講座の開催報告とご案内

千葉県こども病院では県民の皆様にごども病院を知っていただきたいと、年に2回県民公開講座を開催しております。

平成25年度第2回県民公開講座は多くの方々の参加をいただき、下記のとおりで開催いたしました。

講師の神山先生はユーモアを交えた分かりやすい説明で、睡眠の大切さについてご講演くださいました。

テーマ：「子どもの眠りは大人の眠りを写す鏡」

講師：東京ベイ・浦安市川医療センターCEO 神山 潤先生で平成26年1月26日（日）に開催いたしました。

次回の千葉県こども病院県民公開講座の開催日は未定です。開催日等詳細が決まりましたら、こども病院のホームページやポスターでお知らせいたします。

※託児をご利用の場合、あらかじめの託児の申込が必要です。



すくすく通信

第9号

このコーナーは診療科を順にご紹介します。

循環器科

循環器内科の対象疾患には、先天性心疾患、川崎病後心臓合併症や不整脈、心膜心筋疾患などがあります。

先天性心疾患の約半分は新生児期や乳児期に手術が必要なことが多く、命にかかわる疾患です。そのため心臓血管外科、NICU、ICUなど関連各科と連携を取りながら診療にあたっております。また千葉大学産婦人科とはネットワークを介した定期的カンファレンスを毎月開催しています。

また心臓疾患の治療には外科手術以外に、カテーテルによる治療があります。最近では心房中隔欠損症や、動脈管開存症などの病気に対して、専用の「閉塞栓」を挿入して閉塞することが可能となりました。当院でもこれらの先進的な治療が可能で積極的に施行しています。

重症心不全児は長期入院治療を要することもあります。退院できると外来管理が主体になります。外来における心不全治療や生活指導などは大事な診療であり、軽症であっても経過観察は欠かせません。しかし外来でもエコー、心電図などの検査項目が多く患者数は増える一方で、長期休暇時期は大変な混雑となっています。

成績の向上とともに心疾患児が幼稚園、学校などで健常児とともに生活することが多くなりました。予防接種も含めて日常の保健衛生、感染症など、当院のみでは対応しきれない部分では、地元の方のご協力を頂いており感謝に堪えません。

1997年を境に先天性心疾患患者の人口は小児よりも成人が多くなりました。このため成人期への移行医療が課題となっていますが、当院では、千葉県循環器病センター成人先天性疾患治療部と積極的に連絡をとっています。

現在循環器スタッフは6人となりましたが、入院、外来、超音波検査、その他画像検査、心臓カテーテルなど業務も多岐にわたり多忙です。

しかし急ぎの患者依頼の際はいつでも対応いたしますので、スタッフにご相談ください。



中島 弘道



耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科は、外科的治療が必要な小児と難聴児の診療を中心に行っております。手術ではアデノイド切除術、口蓋扁桃摘出術、鼓膜換気チューブ留置術が多くなっています。

重症の睡眠時無呼吸などでは1歳前後でも手術を行っています。

また、他の合併症を有している場合でも口蓋扁桃肥大が呼吸障害の原因となっている場合は、積極的な手術を施行しております。

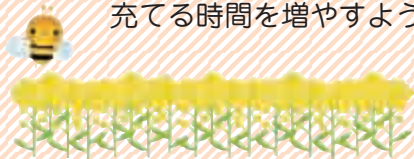
新生児聴覚スクリーニング精査機関は県内に3施設ありますが、その一つとして年間100例以上のスクリーニング要精査例を受け入れています。出生直後に難聴疑いと言われ不安いっぱい受診される保護者に対して、可能な限り早く正確な診断をすることを心がけています。難聴が発見された場合には、早期療育へつながらるように療育施設と連携して進めております。難聴の原因診断として画像検査、遺伝子検査、臍帯からのサイトメガロ検査を実施しています。小児難聴の約半数は遺伝子が関与しているため、遺伝カウンセラーと共にカウンセリング体制も整えております。療育施設とは定期的な情報交換・勉強会の場を設けております。当院では治療として人工内耳手術は実施しておりませんが、適応のある患者さんは実施している病院への紹介を行っております。

また、小児の気道病変の診断、評価、治療にも携わっています。乳児の喘鳴の診断治療、気管切開術、嚥下機能改善手術（喉頭気管分離術）などを施行し、気管切開術後の気管内肉芽や気管狭窄などのトラブルを予防、早期治療するための定期的な経過観察を行っています。

外来患者さんが増加の一途であり、最近では診断と治療方針の決定を行いその後は極力地域での経過観察、治療を継続してもらう方針に変更させていただきました。その分新規の患者さんの診療に充てる時間を増やすように心掛けていますが、依然新患予約が約1か月先という状態が続いておりご迷惑をおかけして申し訳ありません。気道病変等で、早期の対応が必要と思われる患者さんは、ご連絡をいただければ対応させていただきたいと思っております。



仲野 敦子



こども・家族支援センターの取り組み

。。。 Webを利用した面会のご紹介。。。



入院中の患児やご家族・患児を支えている方々にとって面会は一つの楽しみであり、大切な時間となります。

しかしながら、当院では感染予防の観点から、両親・祖父母以外の方や12才以下のお子様の入室面会はお断りしています。そこで、長期間入院中の患児とご家族へのサービスのひとつとして院内Webを利用して面会の気分を味わって頂こうと平成25年9月から「Web面会」を開始しましたので、ご紹介します。

Web面会とは、院内回線を利用しiPad（当院保有）の画面を通して入室面会のできない方々との面会が可能なシステムです。方法は事前に申し込みをしていただき、病室にはiPadを持って行き、こども家族支援室に集まって頂いた親戚の方々・友人・学校関係者の方等はカメラ付き専用パソコンごしに対話します。利用者はまだ、少数ですが、ご家族は「やっと会わせることができた」と喜んでいらっしゃいました。学校の先生方が歌を聞かせたいと練習をしてきて下さったこともありました。また、人工呼吸器装着中の患児がきょうだいの呼びかけに手足を動かさず場面もあり、ご家族は感激していらっしゃいました。

現在は火曜日と金曜日の15時～17時の枠内の実施ですが、少しでも多くの患児やご家族・患児を支えている方々に楽しい時間を過ごしていただけるように検討を進めてまいります。

千葉県こども病院

〒266-0007 千葉県千葉市緑区辺田町579-1
TEL.043-292-2111 FAX.043-292-3815

詳細は病院ホームページをご覧ください。 <http://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo>